

夏期日本語教育報告

総 括

夏期日本語教育ディレクター
金山 泰子

2018 年度夏期日本語教育（以下 SCJ）は、2018 年 4 月に旧日本語教育研究センターから現グローバル言語教育研究センターに移行して初めて迎えたサマープログラムであった。猛暑や二度の台風の上陸など厳しい気候条件であったが、94 名の受講者を迎え、大過なく無事終了することができたのは、学内関係部署の皆様や学外の関係者の方々のご支援のおかげである。心より感謝申し上げたい。以下では今年度の振り返りと今後の課題について述べる。

1 スケジュール

7 月 5 日（木）に登録、オリエンテーション、6 日（金）プレースメントテストを実施し、9 日（月）より授業開始、8 月 9 日（木）に授業終了とした。今年度は 7 月 16 日（月）海の日は休みにした。これは、昨年度海の日を授業日としたが大学内の施設が使えなかったり、人的支援を受けられなかったりなど不都合な点があったという反省を踏まえて決定したものである。結果として正味 5 週間という短いプログラムからさらに海の日が休日となったため、十分な授業時間が確保できなかった。また、海の日が第 2 週目の月曜日にあたり、ちょうど 1 週間の学習ペースが出来上がったところで休みが入ることも、学習習慣の定着という観点から効果的ではなかったと思われる。こうした反省をふまえて来年度は海の日も授業を実施することが望ましいと考える。

また今年度はコース終了間近に台風が関東地方を直撃し、最終日の授業開講が危ぶまれる状況であった。最終日が休講となった場合を想定し、急遽各コースにスケジュール変更を依頼して対応したが、結果は台風一過でスケジュール通り開講できることとなった。夏の台風上陸は今後も予想されるため、来年度以降はこうした状況も踏まえたスケジュール作成が必要である。また、災害により期末試験が実施されなかった場合の成績評価についても、あらかじめ措置を講じておく必要がある。

2 クラス編成と担当教師

詳細は「教務報告」を参照されたいが、C1（初級）から C7（上級）および C-sp（継承語としての日本語）の全 8 コースを開講した。外部からの 14 名の講師を迎え、JLP 専任講師 1 名、JLP 非常勤講師 5 名が参加し、計 20 名の講師陣であった。このうち 4 名は初めての参加であったが、経験ある講師のサポートのおかげで協力体制を上げることができた。クラス編成は、J3（初級後半）が 19 名で最も多く 2 セクション（担当教員 4 名体制）となり、J2（初級半ば）が 15 名、J4（中級前半）が 17 名で、共に部分 2 セクション（担当教員 3 名体制）となった。ここ数年の傾向では、初級半ばから中級前半レベルの学生が多くなっている。その他 C-sp は 4 名と少人数ではあったが、継承日本語教育コースを開講している大学は少ないため、毎年このコースを希望して応

募する学生が一定数存在する。継承日本語学習者は国内外において増加傾向にあるため、C-sp は引き続き開講する必要があると思われる。

3 受講生の内訳

一般の学生（社会人も含む）が 54 名、ICU の教育交流プログラムで参加した学生が 40 名で、計 94 名である。このうち、本学在学中の本科生が 4 名、また SCJ から継続して秋から本学 4 年本科生となる学生が 2 名、1 年在学する学生が 4 名、1 学期在学する学生が 10 名であった。

国 / 地域は 27 国に及び、最も多いのはアメリカで 41 名、ついで中国が 21 名となっているが、全体的に中国系の学生が増加の傾向にある。

また、2 名が自己都合により中途退学となった。

4 宿舎

ICU の寮寮が 73 名、ホームステイが 8 名、ソーシャルレジデンスが 6 名、各自アレンジが 7 名であった。ホストファミリーの方々、寮の職員、学生アルバイトの温かいサポートにより、大きな問題なく、学生達は快適に過ごすことができたようである。

寮寮は、7 月 4 日（水）が入寮日、8 月 10 日（金）が退寮日であった。退寮日を土曜日にすると、8 月のオープンキャンパスと重なる可能性が高いという昨年度の反省を踏まえて金曜日を退寮日とした。しかし「1. スケジュール」の項で述べたように、授業時間確保のために金曜日まで授業を実施することが望ましいため、来年度はまた土曜日退寮となることが想定される。寮の職員と協力して対応していきたい。

5 文化プログラム

マーク・ウィリアムズ学術交流副学長の統括のもと、保坂明香文化プログラム担当が学生アルバイトの助手 3 名と協力しつつプログラムを運営した。詳細は「文化プログラム報告」を参照されたいが、今後に向けて、熱中症対策に配慮しつつ、学内学外双方のイベントをバランスよく配置すること、教育プログラムとの連携を視野に入れて企画運営することなどが課題として挙げられる。

6 緊急時対策

学生の安全は常にプログラムの最重要事項であるが、2018 年の夏は二度にわたる台風上陸があり、特にその重要性を痛感した。SCJ の対策としては、まず学生に事前メールを送信し、緊急時における注意事項を伝えと共に、実際の緊急時には SCJ に安否確認メールを送信するように伝えた。また、SCJ と大学事務局との連絡体制をあらためて整備した。幸いに台風の被害は想定したほどには大きくならず、この安否確認メールを実際に受け取る事態には至らなかった。しかしながら日本において地震・台風の可能性は常にあり、さらに年々厳しくなる暑さも加わって、SCJ 開講時の天候条件は予断を許さない状況にある。ことに 2020 年東京オリンピック時には、通常以上に東京に人口が集中することが予想され、今まで以上に慎重に、緊急時に向けての綿密な

対策を講じる必要があると考える。

7 大学一斉休暇中の対応

例年、SCJ 開講中 2 週間が大学の一斉休暇と重なる。これまでは施設・各部署の閉鎖に伴い、不都合が生じることもあったが、今年度は各部署のスタッフが交替出勤するなどの対応によりサポートを得た。

今年度は一斉休暇中に本館の Wi-fi 設置工事が行われ、一定期間 Wi-fi が使用できなくなるということがあった。IT センターのサポートにより事なきを得たが、IT 関係の不備は、授業だけでなく、授業準備、授業外の学生対応など様々なことに影響が出るため、特に連携の必要性を感じた。

また、毎年中間テストの時期が一斉休暇中に重なる。今年度は特別支援の必要な学生が別室受験するため、特別学修支援室スタッフに休暇中にも関わらず試験監督を依頼せざるを得なかった。特別支援を必要とする学生は年々増加する傾向にあるため、随時専門スタッフと連携できる体制が望ましい。今年度はスタッフの厚意に頼らざるを得なかったが、今後は大学に向けて夏期中の特別支援体制の充実を訴えていきたい。

一斉休暇中にサポートしてくださった方々にあらためて感謝申し上げると共に、今後より密な情報共有と連携をお願いしたい。

8 その他

SCJ 期間中、米国ジョージ・ワシントン大学、英国イーストアングリア大学より訪問を受けた。ジョージ・ワシントン大学とは、同校主催の日本語スピーチコンテスト「J-Live」の受賞者を 2019 年度 SCJ より受け入れることが決定した。

以上、概観ではあるが、2018 年度の SCJ を振り返り総括を述べた。繰り返しになるが、このプログラムを無事に終了できたのは、多くの方のサポートとご尽力があったからに他ならない。プログラムに関わってくださったすべての方々にあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

教務報告

教務主任
桜木 ともみ

2018 年度の夏期日本語教育は記録的な猛暑と二度の台風に見舞われたものの、94 名の受講生・8 レベルのコースを 20 名の講師、関連部署のスタッフ、教務助手、ボランティアの学生など多くの方々に支えられ無事に終了することができた。以下、今年度の教務関連事項について報告する。

1. スケジュール

表 1. 教務関連のスケジュール

日時	内容
7 月 4 日 (水) 13:00-	全体講師会、プレースメントテスト実施要領説明
7 月 5 日 (木) 午前 13:00-15:00	受講生登録、オリエンテーション 歓迎会
7 月 6 日 (金) 午前 午後	プレースメントテスト実施、入門クラス (C1) 授業 プレースメントテスト採点及び判定会議 受講生キャンパスツアー、図書館ツアー
7 月 9 日 (月) 8:30 8:50- 午後	レベル判定結果発表 授業開始 受講生のコース移動等に対処
7 月 10 日 (火) 8:30-	教科書販売 (文化ラウンジで対応)
7 月 11 日 (水) 13:50-15:00	全体講師会
7 月 18 日 (水) 13:00-15:00	講師懇親会
8 月 9 日 (木) 8:50-12:40 13:00-15:00	授業最終日、期末試験 歓送会
8 月 10 日 (金) 11:00- 15:00 まで	コース報告会 成績・コース報告書等提出

2. コース概要

2.1 授業時間

授業は月曜日から金曜日まで、通常学期と同様に表 2 の時間帯で行った。

午後の個別指導については水曜日以外の 4 日間で行い、水曜日午後は全体講師会の時間とした。

表 2. 授業時間

1 限	8:50-10:00
2 限	10:10-11:20
3 限	11:30-12:40
《昼休み》	
個別指導	13:50-15:00 (水曜日以外)

2.2 各コースのレベルと使用教材

今年度も入門レベルから上級、継承語としての日本語のレベルまで、計 8 コースを開講した。各コースのレベルと使用教材は以下のとおりである。

表 3. 各コースのレベルと使用教材

コース	レベル (CEFR)	教材
C1	初級 (A1)	『ICU の日本語 1』 Getting Started, L1-9 漢字練習帳 (L1-L9) 文法練習帳 (Getting Started,L1-L9)
C2	初級 (A2)	『ICU の日本語 1』 L10 『ICU の日本語 2』 L11-L19 漢字練習帳 (L10-L19) 文法練習帳 (L10-L19)
C3	初級 (A2)	『ICU の日本語 2』 L20 『ICU の日本語 3』 L21-L29 漢字練習帳 (L20-L30) 文法練習帳 (L20-L29)
C4	中級 (B1)	『ICU 中級日本語 1』 本冊、別冊、練習帳
C5	中級 (B1)	『ICU 中級日本語 2』 本冊、別冊、練習帳
C6	中級 (B1/B2)	『ICU 中級日本語 3』 本冊、別冊、練習帳
C7	上級 (B2)	学生に合わせて適宜生教材等を使用
C-Special	日本語特別教育 (継承語としての日本語)	学生に合わせて適宜生教材等を使用

2.3 コース担当講師

表 4. コース担当講師

コース	コーディネーター	ティーチングスタッフ
C1	郡司 拓也	風間 美鈴
C2	貴志 佳子	三木 貴司、近藤 弘
C3 (Section 1)	平田 泉*	中尾 眞木子
C3 (Section 2)	江崎 裕子*	梅澤 薫
C4	成 永淑	中 智恵子
C5	澁川 晶**	檜崎 真理子
C6	宇賀持 綾子	小柳津 成訓*
C7	藤本 恭子*	本間 邦彦
C-Special	加藤 久子	島崎 恵理子*

計 20 名

* のマークは ICU 日本語教育課程の非常勤講師、** は ICU 日本語教育課程の専任講師を示す。

3. 受講生のプレースメント

尾崎 (2017) でも報告されているように、受講生が出願する時期とサマーコース開始時に約 4 ヶ月～6 ヶ月の隔たりがあるため、出願時点での日本語学習歴から適切なコースを予想してもその予想通りにプレースされる割合は高くない。そのため、受講生の適切なプレースメントのためには来日後のプレースメントが不可欠であり、今年も例年通りオリエンテーション翌日にプレースメントテストを実施した。

2018 年度は 94 名の受講生を迎えたが、その内訳は ICU 在校生で春学期に続き夏のコースを履修した 4 名、ICU 入学や交換留学等で SCJ の後も継続して ICU に在籍予定の 16 名、SCJ のみの受講生 74 名であった。ICU 在校生以外は基本的に全員プレースメントテストを受け、日本語学習歴がない場合はひらがなや挨拶表現などを学ぶ入門クラスに参加した。

プレースメントテストの結果については、各コースのコーディネーターを中心に複数名で総合的に検討し決定した。学生はプレースされたコースで初日の授業を受けるが、そこでのパフォーマンスなどの様子から担当講師がコースを移動した方が適していると判断された学生についてはコース間で相談し移動した。最終的に各コースは以下のよう
な人数となった。

表 5. 各コースの受講生数

コース	判定結果	最終受講生数
C1	7	12*
C2	22	15
C3	20	19
C4	15	17
C5	12	13
C6	8	10
C7	5	4
C8 (C-Sp)	5	4
		計 94 名

*C1 受講生のうち 2 名は自己都合で中途退学した。

受講生のプレースメントの結果を受け、各コースの受講生数と特別支援を要する学生への対応を考慮し、C3 は全日程を 2 セクションで、C2 と C4 は部分的に 2 セクションで授業を実施した。

4. 教務・学習・学生への支援体制

4.1 教務・学習支援

SCJ の教務関連の運営は、グローバル言語教育研究センター (RCGLE) 事務室、教務助手、授業ヘルパー、総合学習センター (ILC) 所轄のヘルプデスク・サポートデスク等による支援体制のもと実施された。

授業は基本的に本館 2 階の教室で実施し、適宜各コースの授業内容に応じて ILC のコンピュータ教室を使用できるようにした。

講師室は、第二教育研究棟 (ERB2) の 3 室 (ERB2-121, 128, 130) に設置し、コース・レベルごとに講師の机を配置した。事務室 (ERB2-104)、教務室 (ERB2-105)、ICU 常勤講師の研究室も近く、連絡や相談、教材作成等がスムーズにできた。

教務室は、授業開始前の 8 時から 16 時までとし、教務助手 (学生アルバイト 2 名)・授業ヘルパー (シフト制で 8 名が交替で勤務) のうち 1・2 名が常駐し、教務関連の業務補佐を担当した。具体的には、貸し出し業務 (本館教室用キースイッチ、ノートパソコン、視聴覚機器、ILC 教室の鍵、事務用品など)、教材の印刷、ビジターセッション等の会話ボランティアの手配、教員への諸連絡・対応等であった。昨年度も教務助手・授業ヘルパーを担当した経験者がいたため、業務内容の引き継ぎや作業内容の確認・改善を円滑に進めることができた。

4.2 学生支援

SCJ 期間中、図書館、特別学習支援室、カウンセリングセンター、ヘルスケアオフィス、及び夏期日本語教育に常駐する看護師によって学生支援が行われた。

近年、特別支援を要する学生が増えてきており、2018 年度は 2 名の受講生から事前に特別支援の要請があった。そのため、SCJ 開始前から該当の学生への対応を検討し、プレースメントテスト、中間テスト、期末試験の際の準備や別教室での監督などを特別学習支援室に依頼した。また、事前に特別支援申請はなかったものの、来日後に生活面や授業中での支援が必要になった受講生がいたこともあり、特別支援のための人手不足は大きな課題となった。SCJ 期間中の学生支援について、大学全体でそのサポート体制を見直す必要があるだろう。

5. 総括

以上、2018 年度夏期日本語教育の教務関連事項について報告した。台風や猛暑などの影響が心配されたものの、無事に終了することができたのは、プログラムに関わった多くの方々のご支援のお陰である。また、これまで夏期日本語教育の運営を行っていた日本語教育研究センターは 4 月からグローバル言語教育研究センター（RCGLE）に引き継がれた。センター長の岩田祐子先生、事務担当の井上諒子さん、そして夏期日本語教育主任の金山泰子先生のご尽力に心より感謝申し上げます。

参考文献

尾崎久美子（2017）「教務報告」『ICU 日本語教育研究』14, 88-91

文化プログラム報告

文化プログラム担当
保坂 明香

2018 年度の夏期日本語教育においても、例年同様に様々な文化プログラムが実施された。台風や猛暑による影響が懸念されたが、学内外の温かい支援を受け、全てのイベントが無事に終了した。多くのサマーコース受講生が様々なイベントに参加し、日本語学習の機会と共に、日本文化に対する理解を深める機会も得られたことと思う。以下に、2018 年度の文化プログラムの実施内容と課題を報告する。

1. 文化プログラムラウンジ、業務

1.1 報告

文化プログラムラウンジは本館（本学施設）2 階教室に設置され、期間中、午前 8 時半から午後 4 時まで開室された。ラウンジではイベントの参加受付、支払い、ボランティアへの連絡、イベント実施のための作業等が行われ、文化助手 3 名が交替でラウンジに常駐しこれらの業務に携わった。文化助手は主たる業務以外にも、受講生との会話や学内外の案内を積極的に行い、受講生の学びが豊かなものになるよう努めていた。

1.2 課題

文化助手は受講生がラウンジに入りやすい雰囲気をつくるために、ラウンジの壁や 2 階踊り場スペースにポスターを貼付してラウンジの宣伝をし、積極的に受講生に話しかけていたが、ラウンジはイベント参加や情報収集の場所として利用されることが多く、交流のための場として生かされることは少なかった。受講生の終了後アンケートを見ると、日本語を使う場や人々と交流する機会を求める声があり、文化助手もまた交流活動に取り組んでいたにも関わらず、ラウンジで実現しなかったことは課題として残る。今後、ラウンジが盛んな交流の場となるために、環境づくりが求められる。

2. 文化プログラムイベント

2.1 報告

昨年度に倣い、2018 年度も学内でのイベントを火曜日に、学外でのイベントを金曜日に実施した。以下、本年度実施したプログラムの一覧である。

実施プログラムと参加人数

日程	イベント	講師	定員	希望者数	参加者数
7月13日（金）	歌舞伎鑑賞		46名	35名	35名
7月17日（火）	映画上映・講義・ディスカッション	ICU 国際学術交流副学長 マーク・ウィリアムズ教授	定員 設けず	23名	23名
7月20日（金）	坐禅体験	観音院 来馬正行住職	35名	26名	25名 ⁽¹⁾
7月24日（火）	茶道体験	ICU 茶道部顧問 網谷宗実先生 若松宗純先生	24名	27名 ⁽²⁾	26名
7月27日（金）	江戸東京博物館 訪問		25名	31名	28名
7月31日（火）	日本舞踊体験	ICU 日本舞踊研究会顧問 水木和歌先生ほか	40名	18名	18名
8月2日（木） 8月3日（金）	ジブリ美術館訪 問		54名	53名	52名
8月7日（火）	クイズ大会		定員 設けず	5名	5名

特記事項

今年度、本学国際学術交流副学長マーク・ウィリアムズ教授が映画『沈黙』の上映会と講義を実施し、その後、受講生と教員がディスカッションを行った。多くの受講生がこのイベントに参加し、日本の江戸時代におけるキリスト教信仰に対し理解を深めていたようである。特に、初級の学習者の参加が多かったことは印象的であった。今後、本学の教授による講義の機会が増えれば、ICU でしか受けられない教育、得られない経験をすることが可能になるのではないだろうか。

近年、地球温暖化による気温上昇のため、大学関係者もまたこれまでより学生の健康管理に十分に留意し慎重に対応をとることが求められている。茶道体験は例年、泰山荘（本学施設）で実施されているが、空調が設置されていないため、熱中症の危険性を考慮し、本年度は本館教室で内容を一部簡略化して実施した。今後、プログラムの実施を検討する際、気候や環境を考慮する必要性を強く感じる。

8月7日に実施されたクイズ大会は、文化助手の発案・企画により行われたイベントである。助手らは主体的に業務に関わり、教育プログラムと文化プログラムを連動させようと努めていた。今後、このような取り組みを増やしていければと考える。

2.2 課題

支払い方法

例年に倣い、イベント参加費の支払いは大学発行の証紙を使用して行った。証紙支払いであることはポスターやイベントのしおりに書いて示したが、受講生にこの方法がな

かなか理解されず、都度口頭での説明が必要であった。また、証紙の販売機が本館にないため、イベントの当選結果を確認してから、証紙を購入し、支払いを済ますまでに時間がかかり、結果的に支払いが滞ることがあった。支払い方法をより簡便な形式にしてもよいかもしれない。

また、イベントの申し込みをした受講生が、プログラム側に通知なく参加を取り止めるということがしばしばあった。今後は、コース開始時に配布するパンフレットに支払いのポリシーを明記し、受講生とプログラム側の理解に齟齬がないようにしたほうがよいだろう。

学生への対応

本年度、車椅子を使用している学生がいたため、歌舞伎のチケット予約の際に、車椅子スペースを一席確保した。車椅子スペースは会場内後方だったが、他の学生の席は最前列にあったため、この学生は他の学生と離れて歌舞伎を鑑賞しなけりならなかった。また移動の際も、エレベーターを探す、乗車する等に手間取り、想定した以上に引率に時間を要した。以上については、より綿密な下調べをすべきだったと考える。

座禅体験では体験学習の一環として禅宗の食事のマナーを学び、提供された食事をとることになっている。食物アレルギーをもつ学生から、事前に食事のアレルギー情報を知りたいという要望があったため、観音院（坐禅体験会場）に確認し、参加者全員に周知した。食事が提供されるプログラムでは、学生のアレルギーや健康にも配慮が必要である。

撮影した写真や動画を容易に SNS やブログ等に載せられる昨今、肖像権や個人情報保護を考慮し、イベント実施中の写真撮影のポリシーも定めたほうがよいだろう。

イベント終了後に現地で解散することは認められているが、イベント途中で自己都合で施設や会場を離れることが許容されるか否かには疑問が残る。学生の安全に対する責任の観点から、学生側とプログラム側双方が共通の理解をもつ必要があるだろう。

3. 会話ラウンジ

毎週水曜日の昼休憩に、新 D 館（本学施設）1 階ラウンジにおいて、学生ボランティアを迎え、会話ラウンジを実施した。4 月よりボランティアの募集をしていたが、本年度は参加ボランティアの数が少なく、文化助手のみで会話ラウンジを行うこともあった。今後、より効果的なボランティア募集の方法を考えなければならないが、大学職員や地域住民等に参加を働きかけるのも一案ではないかと思われる。

受講後アンケートに、ラウンジでの会話は初級の学習者には難しかったという声があった。初級の学習者が会話ラウンジに参加しやすくなるように、学習した文型表現、語彙のリストをボランティアに配布する、学んだ表現を使った会話例を提示する等の工夫をしてもよいだろう。また、日本語レベルでグループ分けをし、学んだことが生かせる環境をつくってもよいかもしれない。

4. おわりに

期間中のイベントの宣伝や広報活動は適切且つ十分に行われたと思われるが、上述のように参加者数が定員に達しないイベントもあった。また、イベントに一度も参加しない学生もいた。インターネットで容易に情報収集をすることが可能な昨今、外国の地においてもそれらを駆使すれば様々な体験をすることが可能になっている。文化プログラムに求められるニーズも変容していると考えべきだろう。今後、日本文化に対する理解を深められる、受講者のニーズに寄り添ったプログラムを企画していかなければならない。

今後に向けて検討すべき課題はあるが、受講生は6週間という短い期間の中でも、日本文化について考える機会を得、学びを深めたように思われる。プログラムの実施にあたり、支えてくださった多くの方々にここに心より感謝を申し上げたい。

注

1. 希望者数と参加者数が異なるのは、参加を取り消した希望者がいたためである。
2. 定員を超えて受け入れたため、定員より参加者数が多い。

事 務 報 告

1. スタッフ

Mark Williams	国際学術交流副学長
岩田 祐子	グローバル言語教育研究センター長
金山 泰子	夏期日本語教育主任
桜木 ともみ	夏期日本語教育教務主任
保坂 明香	夏期日本語教育文化プログラム担当
井上 諒子	グローバル言語教育研究センター事務室業務担当
林 久美	グローバル言語教育研究センター事務室業務補佐

肖 婧	グローバル言語教育研究センター助手
-----	-------------------

阿部 勝成	夏期日本語教育教務助手（学生アルバイト）
天王 祐里	夏期日本語教育教務助手（学生アルバイト）

他、授業ヘルパー 7 名がシフト割で 1 日 1 名勤務

荒原 佳歩	夏期日本語教育文化プログラム助手(学生アルバイト)
松岡 満梨子	夏期日本語教育文化プログラム助手(学生アルバイト)
渡邊 瑞穂	夏期日本語教育文化プログラム助手(学生アルバイト)

2. 講師名簿（所属は2018年4月1日現在）

	教務主任	桜木 ともみ	国際基督教大学	日本語教育課程	インストラクター
C1	郡司 拓也	Lingnan University	Part-time Lecturer		
		University of Macau	Part-time Lecturer		
	風間 美鈴	University of British Columbia	Lecturer of Japanese		
C2	貴志 佳子	Case Western Reserve University	Lecturer in Japanese		
	三木 貴司	Cornell University	Lecturer		
	近藤 弘	日本経済大学	非常勤講師		
C3	平田 泉	国際基督教大学	日本語教育課程	非常勤講師	
	江崎 裕子	国際基督教大学	日本語教育課程	非常勤講師	
	中尾 眞木子	Johns Hopkins University	Full-time Lecturer in Japanese		
	梅澤 薫	University of East Anglia	Lecturer in Japanese Language		
C4	成 永淑	University of Colorado, Boulder	Lecturer of Japanese		
	中 智恵子	Sarah Lawrence College	Guest Faculty		
	櫻井 遼太	Colorado College	Japanese Cultural Program Coordinator		
C5	澁川 晶	国際基督教大学	日本語教育課程	インストラクター	
	檜崎 真理子	Fashion Institute of Technology(SUNY)	Adjunct Assistant Professor		
		William Paterson University	Adjunct Faculty		
		Japan Society NY/U.S.A	Instructor		
C6	宇賀持 綾子	Saint Petersburg University	Senior Lecturer		
		Supplementary Japanese School	Teacher		
	小柳津 成訓	国際基督教大学	日本語教育課程	非常勤講師	
		上智大学	嘱託講師		
		政策研究大学院大学	非常勤講師		
		立教大学	兼任講師		
C7	藤本 恭子	国際基督教大学	日本語教育課程	非常勤講師	
		聖心女子大学	非常勤講師		
		早稲田大学	インストラクター（非常勤）		
	本間 邦彦	University of Hawaii at Manoa	Graduate Assistant		
C-Sp	加藤 久子	関東学院大学	非常勤講師		
	島崎 恵理子	国際基督教大学	日本語教育課程	非常勤講師	

3. 2018 年 夏期日本語教育 カレンダー

月	火	水	木	金
		7/4 入寮日	7/5 登録 オリエン テーション 歓迎会	7/6 プレースメント テスト キャンパス ツアー
7/9 授業開始	7/10	7/11 会話ラウンジ セッション	7/12	7/13 歌舞伎 (国立劇場)
7/16	7/17 レクチャー 映画『沈黙』	7/18 会話ラウンジ セッション	7/19	7/20 坐禅 (観音院)
7/23	7/24 茶道	7/25 会話ラウンジ セッション	7/26	7/27 江戸東京 博物館
7/30	7/31 日本舞踊	8/1 会話ラウンジ セッション	8/2 ジブリ美術館 1 日目	8/3 ジブリ美術館 2 日目
8/6	8/7	8/8	8/9 授業終了 歓送会	8/10 退寮

4. 受講者に関する統計

A. 応募者内訳

応募者	137
辞退者	22
合格者 *	107
不合格者	8

* 合格者 107
合格後辞退者 13

受講者	94
-----	----

B. 受講者内訳

① 身分別

	男	女	計
一般受講者	17	33	50
在学生受講者	3	1	4
教育交流プログラム受講者 *	23	17	40
合計	43	51	94

* 〈内訳〉

University of California	17	13	30
University at Buffalo	1	3	4
Emory University	1	1	2
Rutgers University	1	0	1
Pomona College	1	0	1
Lingnan University	1	0	1
The College of Wooster	1	0	1
合計	23	17	40

② 宿舎別

	男	女	計
自分で用意	5	2	7
その他 *	38	49	87

* 〈内訳〉

檜寮	32	41	73
ホームステイ	2	6	8
ソーシャルレジデンス	4	2	6
合計	38	49	87

③ 国 / 地域

Australia	1	Malaysia	1	USA	41
Canada	2	New Zealand	1	USA/Canada	1
Canada/China	1	Philippines	1	USA/Japan	3
China	21	Russia	1	USA/Japan/Singapore	1
Hong Kong	2	Singapore	1	USA /Philippines	1
Japan/Korea	1	Swaziland	1	USA/ Russia	1
Japan/Taiwan	1	Syria	2	USA/Taiwan	1
Korea	2	Taiwan	2	USA/UK/Japan	1
Indonesia	1	UK	1	Vietnam	1

TOTAL: 94